

産民学官・政策課題共同研究 研究員募集

彩の国さいたま人づくり広域連合では、県・市町村・企業・NPO及び大学等の協働による「産民学官・政策課題共同研究」を実施しています。県や市町村が直面する政策課題について、産民学官それぞれの主体が持つ人材や情報、ノウハウ等を活用し、組み合わせることで、地域課題の解決に役立つ実践的な政策提言を行います。埼玉の未来を共に考えていく研究員に、ぜひご応募ください！

研究テーマ (詳細は裏面)

I. 埼玉型の公共空間利活用 プロジェクト

～地域活性化のための官民連携による
社会実験～

コーディネーター：内田 奈芳美 氏
埼玉大学人文社会科学部研究科准教授

II. 埼玉の地域資源の再発見・ 利活用による愛県心醸成 プロジェクト

～埼玉版ツーリズムの構築～

コーディネーター：佐野 浩祥 氏
東洋大学国際観光学部国際観光学科准教授

概要

- 目的 ①政策提言により政策・企画づくりを支援
②研究活動を通じた研究員への研修的効果



研究会での議論



フィールドワーク

- 期間等 平成30年5月～平成31年2月
月1回程度(合計12回程度)(9～17時)

- サービス 研修扱い(職務命令)

- 旅費負担

《所属団体》研究会10回分、中間報告会、成果発表会
《広域連合》フィールドワーク、政策研究交流会
※研究の進捗により臨時で研究会を開催する場合があります。その旅費負担は、1回目が所属団体、2回目以降が広域連合となります。

申込方法等

【対象】 政策研究に関心のある方、産民学官の協働に関心のある方、地域課題の解決に熱意のある方など
※職位による制限はありません。

【募集人数】 1テーマ当たり20名程度 ※申込多数の場合はお断りをする場合があります。

【申込期限】 平成30年5月7日(月)必着

【申込方法】 電子メールにて以下の「お問合せ先・担当」までお申込みください。



お問合せ先・担当 彩の国さいたま人づくり広域連合 政策研究担当

電話048-664-6685 電子メール jinzai03@hitozukuri.or.jp

研究内容

I. 埼玉型の公共空間利活用プロジェクト

～地域活性化のための官民連携による社会実験～

これまで、道路や河川、公園、公共施設などといった「公共空間」は、行政が整備、管理、運営することで「まち」に活動空間を提供してきました。しかし、財政逼迫や人口減少を背景に、行政による公共空間への投資が縮小していく中では、これらの公共空間を戦略的に地域や民間に開放し、公と民が連携して魅力ある空間を創出していくことが重要です。

また今日では、民有地の公共的利用や、公共空間を時間帯や季節によって多様な用途で暫定的に利活用するなど、公共空間のあり方自体が大きく変化しつつあります。

これらのことから、新たな発想による公共空間の多様な利活用の方法を、例えば「コミュニティとしての場づくり」、「社会的活動としての場づくり」、「地域活性化のための場づくり」、「公共空間としての場づくり」として考えていく必要があります。

また、公共空間の開放に当たっては、『「公共」とは何か』ということも問われるため、公共性をいかに担保するかということも考えなければなりません。

平成29年度の研究では道路、河川、公園、エリアマネジメントの4チームに分かれ、それぞれの公共空間の利活用の在り方を検討しました。それぞれ具体的な研究フィールドを設定し、実際に地域での社会実験を行ったことで、公共空間の利活用に当たっての課題が見えてきたところです。

今年度は、新たなフィールドへの展開も視野に入れ、引き続き社会実験等を行いながら研究を深めていきます。



コーディネーター
うちだ なおみ

内田 奈芳美 氏

埼玉大学人文社会科学部 准教授

[略歴] 2004年ワシントン大学アーバンデザインアンドプランニング学科修士課程修了、2006年早稲田大学大学院博士課程修了。博士(工学)。金沢工業大学環境・建築学部講師などを経て、現職。専門は都市計画・まちづくり。

II. 埼玉の地域資源の再発見・利活用による愛県心醸成プロジェクト

～埼玉版ツーリズムの構築～

人口減少時代を迎え、全国の自治体では人を呼び込むための地域ブランド化や観光を軸としたまちづくりなど、地域の特色を生かした様々な地域活性化策を模索・展開しています。この動きは、埼玉県と県内市町村もご多分にもれません。

しかしながら、地域ブランド総合研究所が毎年している「地域ブランド調査」の魅力度ランキングでは、埼玉県は毎回下位に位置しています。さらに、これにも増して深刻なのは、同研究所の「都道府県出身者による郷土愛ランキング」で埼玉県は最下位に低迷しており、「愛県心最下位」というレッテルを貼られているという事実です。

観光まちづくりは、「住んでよし、訪れてよしのまちづくり」と言われています。外から観光客が期待を持って地域を訪ねても、受け入れ側が自地域の魅力を理解せず、「こんな何もないところによく来ましたね」という姿勢では、観光客の満足度は低下し、二度と埼玉を訪れることはないでしょう。

愛県心が低い要因は、埼玉が東京のベッドタウンであり、県民の東京志向によるところが大きいのかもしれませんが、つまるところは県民が埼玉より東京に興味関心を持つがゆえの、埼玉県に対する無知が要因ではないでしょうか。

埼玉県は広く、多種多様な地域資源が眠っていると考えられます。地域資源の編集次第で、県民の県内への興味・関心を高め、県民が県内を観光する機運が高まり、ひいては外部への発信につながるのではないのでしょうか。ボトムアップの観光です。

そこで、地域資源の再発見とその利活用を通して埼玉の愛県心を醸成し、「埼玉版ツーリズム」を構築する方策について、社会実験等を行いながら研究を進めていきます。



コーディネーター
さの ひろよし

佐野 浩祥 氏

東洋大学国際観光学部
国際観光学科 准教授

[略歴] 2002年東京工業大学大学院社会理工学研究科修士課程修了、2006年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了。博士(工学)。立教大学観光学部助教、金沢星稜大学経済学部准教授を経て、現職。専門は、観光まちづくり。

参加者の声

これまでの研究の様子は
SNSで発信しています！



Twitter



Facebook

- 積極的に現場に入って実地調査をし、仮説を立て、意見交換会やシンポジウムなど仮説検証のための実験を行い、提案・提言をするという政策づくりや課題解決のための一連のプロセスを経験でき、大変勉強になった。
- プレゼン資料の作成や意見の伝え方、物事のまとめ方等、実践的なことを学べた。
- 行政だけでなく民間も含めて分野横断的に様々な研究員が参加しているため、議論してお互いの考え方を理解し、知識や情報を共有することにより、業務外の知識や考え方の幅、人的ネットワークが広がった。
- 現在の業務と関わりのないテーマであったが、研究を通して得た経験全てが「学び」であり、大きな財産になったと感じた。勤務場所を変えずに普段の業務と異なる多くの経験を積むチャンスなので、所属や職種を問わず、多くの職員に参加してほしい。